



天然記念物

やまぶしやましゃそう

9. 山伏山社叢

■指定年月日 昭和40年3月17日(1965)

■指定面積 4,033㎡

■所在地 狼煙町カ74・タ15-1

■所有者 ^{すず}須須神社 ^{おくみや}奥宮

山伏山(別名鈴が嶽、標高172m)は、珠洲岬に臨む秀麗な山容の山で、須須神社の旧社地とされ、山頂に奥宮がある。平安時代から修験者の往来があって、山伏山の山名を生んだといい、古来、信仰域として仰がれてきた山ゆえ、これを包む自然林は温存されている。

この社叢約3haは、スダジイとアカガシを主とする照葉樹林で、上層はスダジイ・アカガシが優占し、タブノキ・ヤブニッケイ・ウラジロガシなどを混じえて覆っている。中下層にはヤブツバキ・ヒサカキ・シロダモ・ヒメアオキなどが目立ち、林床にはヤブコウジ・ツルシキミが多く、オモト・ホクリクムヨウランなども見られる。つる植物に

はヤマフジ・ムベ・イタビカズラなどが目立つ。

アカガシの日本海側の北限(新潟県)に近い石川県では、アカガシの野生は少なく、山伏山に、そのまとまった樹林が形成されているのは貴重な存在である。

暖地性の植物が多い中に、ツルシキミ・オオバクロモジ・ナニワズなどの温帯系の植物群落を混じえる照葉樹林の北限的な群落を示している。